

4.2.3 低地の池

(1) 河跡湖(松毛川)

河跡湖(松毛川)では、魚類3科8種、水生昆虫類1科1種が見つかったほか、水辺に生育・生息する植物のマコモ、ヨシ、ホテイアオイ、鳥類のゴイサギ、オオバン、は虫類のスッポンなどが確認されました。



御園(河跡湖南側) 2002/7/15



長伏(河跡湖東側) 2002/7/15

魚類

コイ、ゲンゴロウブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴが多数確認されました。確認された魚類の中には、タイリクバラタナゴやオオクチバスなどの外来魚が多く含まれていました。オオクチバスは、ブラックバスとも呼ばれる北米原産の外来魚、タイリクバラタナゴは中国原産の外来魚です。在来の魚種としてはコイ、メダカ、モツゴが確認されました。この内、コイとメダカについては放流が行われている可能性が考えられます。なお、コイ、ゲンゴロウブナ、オオクチバスは釣りの対象として放流されたものと思われます。

水生昆虫類

水生昆虫類調査時には、昆虫類ではウスバキトンボ、昆虫類以外ではシマイシビル、ミズムシが確認されただけでした。なお、昆虫類調査で行ったライトトラップには、水中で生活するヒメガムシ、コガムシが確認されました。このうち、ヒメガムシは非常に多く採集され、一晩の調査で532個体も採集されました。

水質判定の指標となる生物は、シマイシビルとミズムシの2種が確認され、水質は「きたない水」と判定されました。

タイリクバラタナゴ



全長約 6～8cm のコイ科の魚です。中国原産の国外外来魚で、静岡県内にはコイやフナの放流に紛れて入り込んだと考えられています。二枚貝の鰓(えら)に産卵するため、二枚貝がない場所では繁殖していく事ができません。

【撮影：2002/7/15 河跡湖(松毛川)】

モツゴ



全長約 8cm のコイ科の魚です。体の先端から尾鰭(おびれ)の付け根にかけて黒い筋が見られます。口の部分が長いので、「クチボソ」とも呼ばれます。繁殖期は 4 月下旬～7 月上旬で、石の表面などに産卵します。

【撮影：2002/5/19 三嶋大社(神池)】

ヒメガムシ



体長 10～12mm の黒い色をしたガムシの仲間です。

夏になると低地の池や沼でふつうに見ることができます。灯火に集まる習性があります。

【撮影：2002/7/30 河跡湖(松毛川)】

ウシガエル



体長 18cm にも達する、食用目的で輸入された大きなカエルです。幼生も大きく、12～15cm になります。名前のとおり、牛に似た大きな声でうるさく鳴きます。春～秋にかけて池や流れの緩い川で見られます。

【撮影：2002/7/15 狩野川(新城橋)】

(2) 中郷温水池

中郷温水池では、魚類 3 科 9 種、水生昆虫類 2 科 3 種が見つかったほか、水辺に生息する鳥類のカイツブリ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、昆虫類のクロイトトンボなどが確認されました。冬季には多くのカモ類が飛来します。

池周辺は公園として整備されています。岸辺はほとんどコンクリート護岸がされていないことから、抽水植物⁽⁴⁷⁾が多く見られました。



中郷温水池 2002/7/17

魚類

調査で多く確認されたのは、オイカワと観賞用に放流されたものと思われるコイでした。また、確認された 9 種の内半分以上は、三島市にはもともと分布していなかったオイカワ、カワムツ B 型、カマツカナなどの外来魚でした。この中には釣りの対象として密放流されたオオクチバスも含まれており、調査の際にはオオクチバスを狙っていると思われる釣り人も見られました。

オオクチバスは魚食性の外来魚で、全国各地で在来魚への食害の影響が問題になっていて、在来魚が激減したり局所的に消失した事例もあります。中郷温水池で確認されているトウヨシノボリなどのハゼ科の魚類はオオクチバスに捕食されやすいことが知られています。今後トウヨシノボリが安定して生息できる対策が必要です。

水生昆虫類

水生昆虫類では、昆虫類のイトトンボ科の種、ユスリカ亜科の種、モンユスリカ亜科の種の 3 種、昆虫類以外では外来種のハブタエモノアラガイ、アメリカザリガニの 2 種が確認されました。

水生生物を用いた水質判定では、「たいへんきたない水」と判定されました。中郷温水池は流れのない水域であるため判定が悪くなる傾向があると思われませんが、上流から流れてきた汚れがたまり、きたない状態にあるのかもしれない。

オイカワ



全長約 15cm のコイ科の魚で、三島市には元々分布していなかった魚です。池沼や河川に広く見られますが、特に河川改修により河床が平坦化した河川で目立ちます。雑食性で、水生昆虫や石についた藻類などを餌にしています。

【撮影：2002/7/15 狩野川(新城橋)】

トウシノボリ



全長約 8cm のハゼ科の魚です。尾鰭(おびれ)の付け根にある橙色の斑紋が特徴ですが、形態は地域差や個体差が激しく、個体によっては橙色の斑紋が見にくいものも見られます。成魚はカゲロウやトビケラなどの水生昆虫、稚魚⁽⁴⁹⁾はユスリカの幼虫をよく食べます。

【撮影：2002/7/17 源兵衛川(水の苑緑地)】

クロイトトンボ



体長約 33mm の小さなイトトンボの仲間で、5～9月に見ることができます。低地や丘陵地の植生⁽⁸⁾豊かな池や沼に多く生息しますが、人工的に作られた池でも見ることができます。

【撮影：2002/6/28 中郷温水池】

カルガモ



雌雄同色で、大きさ 60cm 程になります。一年を通して川や池などの水辺に生息し、穀類や水生植物、水生小動物を食べます。地上の草むらに巣を作ります。

【撮影：2002/4/22 大場川(鮎止め橋)】